

令和3年度 学校経営計画・学校評価シート

《高知県の教育理念》	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	学校像	○児童生徒が自己実現 ○保護者が成長と発達 ○地域になくてはならぬ ○教職員が仕事に誇り
《取組の方向性》	<第3期高知県教育振興基本計画 基本方針と横断的取組> ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 ○学校における働き方改革の推進		児童生徒像	<知>自ら学ぶ ○学ぶ楽しさを感じ、自ら進 ○社会生活に必要な知識や <徳>意欲・協調・協力 ○人や環境と積極的に関わ ○お互いを認め合い、思い <体>健康・体力 ○卒業後も一人一人の持て 慣を身に着けた児童生徒

《重点取組項目》

項目	取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	評価結果
1 教育課程の改善	主體的、対話的で深い学びの視点での授業改善と学習評価を教育課程の改善につなげ、一人一人に応じた教育課程を編成する。【3年計画の2年目】 ①個別の指導計画及び学習評価の充実(実態把握、3つの柱での目標設定、3観点での学習評価) ②個別の指導計画を踏まえた各教科の年間指導計画や単元計画案の作成 ③授業づくりのPDCAサイクルを徹底し、主対深の視点での授業改善	【現状・課題】 ①②③新様式の活用及び授業研究により、3つの資質能力を念頭においた目標設定、3観点での学習評価を行うことが意識され始めた。知的1段階の目標・内容を目指す重度の児童生徒の3つの柱での目標設定にはまだ課題がある。 ②単元ごとの観点別学習評価を深めるため、単元計画案を作成し、教育課程の改善につなげた。 ②③国、算・数の授業づくりの検証を行い、教科の系統性を考え発達段階に応じた実践事例集を作成した。児童生徒の実態と学習指導要領の目標や内容とのつながり考え、具体的な指導内容を充実させていく。 ①②4校カリマネ委員会で、個別の指導計画、年間指導計画、単元計画案について好事例を収集した。作成のヒントとして活用する。校内カリマネでの協議も行う。 ③公開授業を行ったが、授業の振り返りは学部により協議内容に温度差があった。資質能力の育成には主対深の視点が必要であることを再確認して授業づくり・授業改善を進める。 【目標】 ①③単元ごとの観点別学習評価の理解を深めるため、全教員が単元計画案を作成する。 ②本校分校合同カリマネ委員会の課題をうけ、教育課程実施上の課題改善の検討を行う。 ③資質能力の育成のために主対深の視点での授業づくり、授業改善を進める。	①②③年間通じて ①個別の指導計画(教務・各学部・資質・能力の3つの指導要領を踏まえた進等) ①次年度の教育課程シートの活用(教務・各学部・資質・能力の3つの指導要領を踏まえた進等) ①②③単元計画・教科指導の充実した指導等でも実施・授業実践振り返りのPDCAサイクル・昨年度作成した ①②本校分校での(研究・教務・各学部・校内カリマネ委員、管理職) ③管理職が中心、位で行い、授業改善
2 専門性の向上	2 ① 自立活動の指導の充実	【現状・課題】 ①②特総研の助言を得て、自立活動に関する基礎的な理解が深まった。 ①全児童生徒の自立活動の「目標設定シート」を作成し、自立活動の指導目標、内容、場面を明らかにし、実態に即した指導支援の充実につなげている。 ②教科と自立活動の関連性についてさらに理解を深める必要がある。 ※コロナ禍でも実施できる研修について検討し、教員の専門性を向上させる。 【目標】 ①②自立活動に関する基礎的な理解と、教科指導との関連について理解を深める。 ①全児童生徒の自立活動の目標について学期ごとに評価、見直しをする。 ②関係部所が連携し、自立活動と教科の指導内容について必要な整理を行う。	①自立活動の基礎的な実施。 ①1学期に新担任 ①目標設定シート ②単元計画に、自分で表記できるように ②指導支援ガイド ※食事指導、身体をお願いし、本校
	2 ② ICT活用の推進	①②基礎的なことや学習への有効活用の方法等、研修を行い、皆が使えるようになる必要がある。 ①使い方や管理のルール(個人情報管理を含む)について周知が必要。 ①トラブルへの対応や、一人1台パソコンのメンテナンスができるか心配。 ①②ICTは手段であるが、目的とにならないようにする必要がある。 【目標】 ①全ての教員がgoogle協働学習ツールG suite for Educationをインストールして活用できるようになる。 ②臨時休業になった場合にも学習保障・連絡用ツール等で一人一台パソコンが活用できるよう、夏休み前までに校内準備を行う。 ②授業づくりや自立活動の指導の取組と関連させて、児童生徒の実態に応じたICT機器の活用を進める。	①教員がgoogle協働に研修会(講習会) ②児童生徒が活用ルを作成 ①可能な場合は、ルG suite for Ed る。 ※GIGAスクール

<p style="text-align: center;">3 働き方改革</p>	<p>子どもに向き合う時間、自分自身を高める時間の確保と、一人一人の力が生かせる職場づくりを行う。</p> <p>①効果的、効率的で計画的な業務により、見通しをもった仕事の仕方につなげるなど教職員の働き方に関する意識改革を行う。</p> <p>②本校・分校で共同・協働してできる業務を検討し、各校の教育活動の交流による質の向上を図るとともに、業務の効率化を図る。</p>	<p>【現状・課題】</p> <p>①多忙感解消のため、新しい様式や書類等による関連性について整理し、周知する必要がある。</p> <p>①校内研修での講師等を固定化せず、だれでもできるように各部所で人材の育成を行っている。</p> <p>②本校・分校での式典行事や会議をTV会議システムで行い、本校への異動の時間が減り、効率が上がった。</p> <p>②本校・分校で共同・協働し、4校カリマネ委員会や芸術スポーツの振興等の教育活動を行った。事務的な処理等がさらに共同でできないか検討する。</p> <p>【目標】</p> <p>①効果的、効率的な業務のための組織体制や業務分担の見直し</p> <p>①部長、学級主任の役割を明かにし、分掌部や学級の経営力を高める。</p> <p>①人材育成・専門性の向上により、学び合う風土を作る。</p> <p>①働きやすく安心・安全な職場環境を実現する。</p> <p>②本校・分校で共同・協働した教育活動や事務的な処理を検討する。</p>	<p>①進捗管理シート 継ぎ資料とする。</p> <p>①主事会と学級主任 ①業務の効率化 ①実践事例や教 ・単元計画案・指 ・教材教具(研究 ・共有フォルダ(指 ①家庭連絡のため ①毎週水曜日の ①会議を短縮す ①健康に気を付け 関係・職場づくり。 ①来年度に向け ②管理職会やカ! 同でできることや</p>
--	---	--	---

<p>親を達成できる学校 親を実感できる教育を行う学校 ない存在として愛される学校 親をもち、やりがいを感じる学校</p>	<p>目指すべき取組姿の概要に</p>	<p>(1)学校教育目標、教育課程、日々の授業の一人一人の実態に応じた教育課程の編成 (2)卒業後の自立と社会参加を見据えた教育 (3)教員の専門性の向上と指導力の育成 (4)児童生徒の命と人権を守る安心安全な学 (5)特別支援教育のセンターとしての支援機能の 進 (6)学校教育目標の達成をめざし、やりがい、</p>
<p>児童で学習する意欲や態度を身につけた児童生徒 児童の技能、態度を身につけた児童生徒</p> <p>児童が、自立し社会参加しようとする意欲を持った児童生徒 やりやりの気持ちで協調・協力しようとする児童生徒</p> <p>児童の力を発揮し、将来にわたって豊かに生きるため、健康や体力、基本的生活習</p>		

(評価 A:E)

具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価
<p>研究日の設定、計画的な実施(教務・研究)の目標設定から学習評価までのPDCAサイクルを推進する。</p> <p>2つの柱による目標設定及び観点別評価の推進(学習指導要領、個別の指導計画の説明会、単元計画案の作成の促進)</p> <p>授業の改善・充実につなげるための教育課程振り返り(振り返りシート)の活用</p> <p>振り返りに基づいた適切な評価を行い、授業改善につなげる。</p> <p>実践事例集を活用し、授業改善に活用する。(研究)の成果をカリマネ委員会の開催と教育課程研究集会の実施(研究部)を通じて発信する。</p> <p>カリマネ委員会(とさき向上委員会)の実施(教務、研究、学部主任)により学級主任と協力し、公開授業の反省会を学級単元単位で行う。</p>	<p>B</p> <p>①教科の研修は、教務・研究部が継続して行っている。</p> <p>①②個別の指導計画記入後、教務・管理職でチェックを行った。教務及びクラスでの話し合いから目標や評価方法の疑問や課題を抽出した。8月末から懇談週間を設定し、内容について全過程と確認を行った。</p> <p>①②とさき向上委員会(校内カリマネ委員会)を4回実施し、単元計画の改善に取り組んだ。</p> <p>③全教員の公開授業は、7月から始めたが、まだ6件のみ(全15授業 40%)である。</p>	<p>①個別の指導計画を活用し、3観点の評価について検討を進めていく。</p> <p>①②合わせた指導の内容について整理しながら、これまでの取り組みを集めていく。個別の指導計画の内容の追加や見直しを継続して行う。</p> <p>①②課題から重度重複(一段階を目指す)の児童生徒の目標・評価について検討していく。</p> <p>①②土佐希向上委員会を中心に、教育課程等の改善を継続する。</p> <p>③事例集のさらなる活用を促す。</p> <p>③10月の終わりまでに全員の公開授業・反省会を行い授業改善につなげる。</p>	<p>B</p> <p>①個別の指導計画に3つの資質・能力を身につけるようになっていく必要がある。については、検討中。</p> <p>②③土佐希向上委員会を作成する。PDCAサイクルを回す。</p> <p>③公開授業をこなすことができて進んでいる。</p> <p>■教育課程の授業改善①32%②指導の明確化0%③自立活動の専門家の活用④0%⑤コミュニケーション⑥0%</p>
<p>本格的な捉え、「目標設定シート」の作成に関する研修会を実施し、確認・見直しを行う。</p> <p>目標設定シートを活用し授業を計画する。</p> <p>自立活動の配慮事項表を作り、教科との関連性について改善する。</p> <p>目標設定シートブック2を活用する。</p> <p>目標設定シートの動きの研修について隣接する施設の職員に講師として教員の専門性の向上につなげる。</p>	<p>B</p> <p>①年度初めに研究部が中心となり、自立活動の研修会を行い、理解を深めた。隣接する施設から職員を外部講師として招き、アドバイスを受け児童生徒の実態把握に役立てた。</p> <p>①「目標設定シート」の研修を研究部員が行い、全体に広げることができた。</p> <p>②前担任が作成した「目標設定シート」をクラスで確認・修正等を行い共通理解を図り指導につなげた。</p>	<p>①「目標設定シート」は、全員が作れるようになったが内容についてさらに深めていく。</p> <p>①②「目標設定シート」と個別の指導計画の内容を見直し、必要に応じて修正を行う。</p> <p>②肢体不自由教育における自立活動の専門性を高める研修を行う。(1学期に計画していた研修で延期した研修の実施)</p>	<p>A</p> <p>①目標設定シートに沿って目標設定ができてきた。また、学習指導内容の確認ができた。</p> <p>②肢体不自由の専門性を向かい合う機会を実施し、できた。</p> <p>■自立活動指導①53%②47%③</p>
<p>協働学習ツールG suite for Educationが活用できるようになることを目指す。</p> <p>児童生徒の一人1台パソコンに、google協働学習ツールG suite for Educationが利用できるように設定し、授業で活用を始める。</p> <p>ICTサポートを活用しながら進める。</p>	<p>C</p> <p>①教職員全体での研修を1学期に行った。</p> <p>①児童生徒用アカウントの作成を行った。</p> <p>②児童生徒が活用するための簡単な使い方マニュアルや管理のルールがまだ作成できていない。</p> <p>②機器やアプリについての知識や技能がまだ十分でない。</p>	<p>①研修を行ったが、効果的な活用には至っておらず、授業での使い方等の研修を計画・実施し、みんなが操作できるように深める。</p> <p>②各授業で使ったアプリの使用法の共有を行い、全体に広める。</p>	<p>C</p> <p>①2学期にも研修についての継続がある。</p> <p>②iPadやタブレットが、クロムブックは、GIGAスキルを得ながら、やアプリについてある。</p> <p>■ICT活用の推進①16%②37%③ICT機器の使用④37%⑤58%⑥</p>

<p>トに年間計画を記入し、分掌業務の見える化を図り、主任の会を定期的を実施する。のために職員室、教材室、教室等の整理整頓を行う。材等の共有と活用の促進を行う。導案(教務・研究)</p> <p>育報担当・各部長等)めICT活用の実施(マチコミメール等)ノー残業デイの実施・週一日の教材研究日の設定るために、終了時間を設定して会議を行う。ナ、ストレスをためない他人を思いやることのできる人間公務分掌の見直しを行う。マネ委員会等を通じて本校・分校の取組を共有し、合統一できるものについて検討し、効率化を図る。</p>	<p>B</p> <p>①教員数減に伴い、分掌業務の見直しを行った。 ①会議のない日を設定し(火又は木)教材研究・準備ができた。 ①ノー残業デイ(水)を設定し、17時15分退勤が定着した。 ①心身のリフレッシュを行う研修はまだできていない(12月の実施予定)。腰痛予防のラジオ体操の広がりはまだ十分でない。 ②Zoom等を使い本校・分校をつないで会議や研修を行い、移動時間の省略ができ、有効に時間を使えた。 ・3校の会議日は、毎木曜日とし、活動が始まった</p>	<p>①教材研究の時間確保し、今後も業務の改善に努める。 ①各教職員に違いはあるが、繁忙期も18時までに退勤できるように計画的に業務を行うよう意識を育てる。 ①ラジオ体操週間を設定し、全職員の腰痛予防に役立てる。 ①年度末に向け公務分掌の見直しを行う。 ②引き続き活動を行う。</p>	<p>B</p> <p>①会議のない研究・準備の時間計画の作成ながっている。 ①繁忙期以外ノー残業デイきた。 ①12月にヨガ身のリフレッシュ十分でない。 ①公務分掌にが、それぞれで、業務の簡易することになっ ②3校合同のた。 ■教材準備時 ①32%②58%③ *数値は、教</p>
--	---	--	--

高知県立高知若草特別支援学校 土佐希望の家分校

つながりを意識したカリキュラムマネジメントサイクルの確立による児童生徒の充実と豊かな心の育成

校づくりの推進
 能力や情報発信、保護者・関係機関等との連携による開かれた学校づくりの推進
 働きがいのある学校組織の運営と働き方改革の促進

目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
<p>計画を作成するとき、能力の考え方ができきたが、観点別評価後も研修を行い深め教育課程の改善に付中である。 上委員会では単元計画時間を設定し、授業クルが行えるようになり、授業改善につきた。授業事例の蓄る。改善 ①16%②63%③5%④0%⑤0% ①16%②79%③5%④0% 強化 ①42%②53%③5% ヨン①37%②63%③0%</p>	<p>B+</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のPDCAを回すことと併せて、個々の特性に合った授業のデータベース化、蓄積、共有、活用するとよいのではないかと。 ・アンケートから、授業が分かるという児童生徒が9割、保護者の肯定的評価は95%、子どもが分かる授業を受け、力をつけていると保護者が思えるというは評価できる。 <p>■教育課程の改善 授業改善①83%②17%③0%④0%⑤0% 指導の明確化 ①75%②17%③8%④0%⑤0% ■自立活動の強化 専門家の活用 ①58%②8%③8%④8%⑤17% コミュニケーション ①75%②17%③0%④0%⑤8%</p>	<p>○重度重複の児童生徒の目標、評価については引き続き蓄積、検討が必要。 ○単元計画表の作成、活用から授業改善ができるようにする。 ○若草3校で教育課程の改善の取組を継続し、充実を図る。</p>
<p>目標設定、指導内容をでき、活用ができ始期ごとにクラスで指しを行い、実態に応じることができた。 教育の中で自立活動上させるための研修指導に生かすことができた。 指導の充実 ①0%④0%</p>	<p>B+</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供のことについて先生とよく話ししており、1年間の成長を感じている。 ・先生が、関わってくれてくれることが増えた、小さいことも一つ一つ増えている。 ・特に何も言うことはないくらい満足している。 ・アンケートでは児童生徒のマイナス評価が12%の学校もあった。これについては問題点を把握し、改善するよう望む。 <p>■自立活動指導の充実①58%②25%③0%④0%⑤17%</p>	<p>○前年度に作成した、目標設定シートを使って事例研をするなど、研修内容を充実させる。 ○目標設定シートを活用し実践を進める。 ○肢体不自由教育の専門性を高める研修会を継続・充実させる。</p>
<p>研修を行ったが、操作継続的な研修が必要で、ICT等は活用できていない。ICTの活用について、ヘルプサポーターの協力的な活用方法についての研究が必要で 推進 習得 ①47%④0% 行った授業 ①5%④0%</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度の子どもさんへの活用が難しかったということだが、子どもが活用してなくても先生方が使えないのは困るので、否定的な評価が多かったと見受けられる。 ・使わなくてはならないときに、ICT支援員等人材活用によるバックアップができています。 <p>■ICT活用の推進 ・ICT機器を使った授業 ①58%②17%③0%④0%⑤25%</p>	<p>○児童生徒の興味関心を引き出せる題材・材料の研究。 ○重い障害のある児童生徒が活用できる教材やアプリの研究を継続する。 ○Zoom機能を使い、効果的な若草3校の研修会や会議をおこない、各自が機器の扱いができるようにする。</p>

日を設定し、教材研究
が確保でき、単元
と授業改善につな

の18時30分退勤、
こつては定着して

教室を行ったが、心
をやる活動がまだ

見直しは、検討した
り仕事内容があるの
素化をしながら対応
た。
会は、効果的に行え

時間の確保
10%④0%
職員のアンケート

B+

・教材研究の時間の確保の評価も上
がってきている。

・小さなことの積み重ねが大切。工
夫をしながら地道な努力をしている
と思う。まだ課題はあるものの、少し
ずつその成果が出ている。これだけ
数値が上がっているので、評価でき
る。

・コロナ禍でICTを使うことが学校運
営に反映された。

・80%に届いたということに驚いてい
る。それだけ学校の努力があったの
だと思う。A評価にしてもいいと思
うが、他にも達成しなければいけ
ない項目もあるのでB+でよい。

○引き続き、会議のな
い曜日を設定し、教材
準備の時間を確保す
る。

○業務の均等化を図
る。

○体を動かす活動
を取り入れ、腰痛予防を
行う。

○若草3校で教員の研
修会を行い、他校の教
員と協同することで、人
材の育成を進める。